

ポピュラー 活用法講座

その<1>

佐土原 知子
(ピティナ正会員)

楽しいピアノレッスン&発表会のために コードを知ろう

せっかくピアノを勉強してきて、中学、高校生になると、クラシックに興味を持てずピアノから離れてしまうという話をよく耳にします。人気のある音楽、テレビで流れている音楽、そういう音楽を弾きたいなと思っていらっしゃる生徒さんもたくさんいるのでは？しかし実際に教えるとなると、先生も何から手を付けて良いのやら…。

そこで、新企画として「コードによるピアノ指導マスター講座」講師としてご活躍中の佐土原知子先生に、ポピュラーミュージックについて分かりやすくお話を頂くことになりました。さあ、楽しいポピュラーの世界をのぞいてみましょう！

ポピュラーの効用

今の子どもたちは、さまざまな音楽に接しています。「流行の曲を弾きたい」「アニメやCMの曲を弾きたい」という要望もあって当然ですね。一方、昨今増え続ける大人のピアノ愛好者からは「オシャレなポピュラーやジャズも弾いてみたい」というリクエストも出てきます。こんな時、皆さんはどう対処していらっしゃいますか。今やピアノ教師も狭いクラシックの世界だけに閉じこもらず、ジャンルを越えて、ハートに響く音楽を追求していくことが求められています。

ポピュラーをレッスンに取り入れると、クラシックだけを教える場合とは違う効果が期待できます。私の教室では14,5年前からポピュラーを積極的に取り入れてはいましたが、きちんと体系化してレッスンに組み入れてからは特に中～高校生以上の生徒は全く誰もやめることなく楽しく続けています。(最近6年間は退会者無。10年以上続けている生徒が全体の約4割)

生徒が長続きする、忙しい生徒のレッスンに効果的、音楽の世界が広がる、先生自身も楽しみ勉強にもなる、といいことづくめのようなのですが、先生方にとってまだまだ教えるのに抵抗があったり、教え方が分からない、自分も弾いたことがない等等など悩みも多いよう…。そこで、クラシックしか知らない方でもグッとポピュラーが身近に感じられるよう、毎回色々な切り口でご紹介していきますので、まずは気軽に、音を出しながら(ここがポイント!)お読み下さい。

コードを知ろう!

さて、さまざまなジャンルの音楽を教えるためには、まずくコードの基礎知識を身につけることをお勧めします。コードに慣れ、使いこなせるようになると、ポピュラーやジャズをいった音楽の世界もぐんと広がります。本講座の進め方として、毎回以下のようなことに少しずつ触れていく予定です。

- 理論編** コードの基礎知識
- 実践編** コード伴奏法、簡単なコード付け
- 活用編** レッスン&発表会での活用法
- オマケ編** ～弾き映える～ おすすめ曲紹介

では、初回は飛ばし過ぎぬよう、ソロリソロリと参りましょうか。

理論編 コードとは?

コードとは、高さの異なる2つ以上の音を同時に鳴らしたときに合成される音のことです。音階上のある音を根音 (root) とし、その上に3度間隔で音を積み重ねていきます。特に3つの音で構成されるものを

<譜1 トライアド>

Root(根音) 3rd(第3音) 5th(第5音)

3度

<譜2 トライアドの種類>

[コード・ネーム]

C	Cm	Caug	Cdim

【読み方】

シー・メジャー (長3和音)	シー・マイナー (短3和音)	シー・オーグメント (増3和音)	シー・ディミニッシュ (減3和音)
-------------------	-------------------	---------------------	----------------------

<譜5 気を付けたい音名>

英語	B	B ^b
ドイツ語	H	B

●ドイツ音名に慣れている人はE・Aにも注意!

<譜6 エンハーモニック>

●書きあらわし方が違ってても、同じ音をさす場合、これをエンハーモニック (異名同音) といいます。

C[#] = D^b

トライアド (3和音) といいます。(譜1 トライアド参照)

そして、このコードの構成を分かりやすく記号化したものを、コード・ネームといいます。例えばトライアドには長、短、増、減の4種類があり、(譜2 トライアドの種類) のように記されます。

コードは便利

コード・ネームがわかると、メロディーにどんなコードが合うのかすぐ分かりますし、曲の分析や大きな流れを捉えることができ便利です。その結果、譜読みが早くなったり、暗譜が楽になるメリットもあります。試しにバイエルにコード・ネームを記入してみると、単純な構成が一目で分かり、ムダな労力が減ることがよく分かります。(譜3 バイエル58番)

更に自分でメロディーに合った伴奏形を工夫できる楽しみもありますし、得意なスタイルを選べますので、一人一人の個性を生かすことにもつながります。また、作曲や編曲の際には、なくてはならない便利な記号です。

<譜3 バイエル58番>

Moderato

<譜4 英語音名>

	C [#] D ^b	D [#] E ^b	F [#] G ^b	G [#] A ^b	A [#] B ^b			
	C	D	E	F	G	A	B	C

英語	シー	ディー	イー	エフ	ジー	エー	ビー
ドイツ語	C	D	E	F	G	A	H
イタリア語	Do	Re	Mi	Fa	Sol	La	Si
日本語	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	イ	ロ

英語音名に慣れましょう

今回のポイントは英語音名です。これを覚えないうちは先へ進めません。実際声を出しながら、パッパと音名が言えるようになるまでトレーニングしましょう。(譜4 英語音名、譜5 気を付けたい音名、譜6 エンハーモニック参照)

次回より、メジャー・コード (長3和音)、マイナー・コード (短3和音)、ドミナント・セブンス・コード (属7の和音) と話を進めていきますので、英語音名はしっかりマスターしておいて下さいね。

※譜4～7「やさしいピアノ伴奏法①」
譜8「やさしいピアノ伴奏法②」
以上、佐土原知子著 ドレミ出版社より

実践編 伴奏の方法とは？

実際にピアノで伴奏を付ける方法としては、右手でメロディーを弾く<片手伴奏>と、歌や連弾、他楽器などの伴奏に用いられる<両手伴奏>の2種類があります。

<譜7 片手伴奏>

<譜8 両手伴奏>

クラシックであれ、ポピュラーであれ、日頃何気なく弾いているピアノ曲が<伴奏法>の一番よい手本となります。

<伴奏の目的>

- 1 メロディーに内在する和音と引き出す
- 2 メロディーの持つリズムをはっきりさせる
- 3 メロディーを引き立てる

素材をどう調理するか、メロディーを生かすも殺すも伴奏次第といえるでしょう。

活用編 レッスンにポピュラーを取り入れよう！

コード・ネームも何も分からなかった先生方が、勉強後（或いは勉強中）に、レッスンにポピュラーを取り入れてみた感想をいくつかご紹介します。

■今まではポピュラー的なものは一切できませんでしたが、ほんの少し自分が知ったことにより、その楽しさを伝えたくなり小学生高学年より少しずつ取り入れています。コードなどは、子どもの方がスムーズに吸収し、伴奏法の本は初見の勉強にも使っています。こういう勉強の仕方があったんだと自分自身が非常に変化し、楽しんでます。

(50代 ピアノ教師)

コード付けの楽しみ

さて、本当に面白くなるのはこれからののです。基本的なコードを覚え、伴奏法や進行法が分かってくると、逆にメロディーにあったコードを自分で選ぶ楽しみが出てきます。例えば、下記のようなメロディーを少しずつ変化させてみましょう。

<譜9 コードづけ>

(主要3和音を使って。譜7参照)

(いろいろなコードを使って)

(さらにポピュラーっぽい響きへ)

※「故郷の人々」より

どうですか？同じメロディーでも随分印象が変わりますね。メロディーに似合うコードを、あたかも洋服をコーディネートする感覚で選んでいく作業はとても楽しいもの。ただし、そのためにはT.P.O.をわきまえた使い方ができるようにトレーニングが必要です。やはり音楽全体の流れや仕組みが分かっていると「メロディーに適切なコード」をつけることはできませんし、いろいろなジャンルの音楽スタイルを知らないと、「それらしい伴奏が付けられる」ところまではなかなかいかないものです。

ということで、まずは知っているコードの種類を増やすことが先決。たくさん単語（コード）と慣用句（コード進行）を覚えて、その後、自分で文章（曲）を作っていくということになるのでしょうか。いきなり難しくなりすぎましたが、「こんな楽しみも後にはありますよ」ということをご紹介します。

おまけ編 良い音楽を選びましょう

「日本ではポピュラーがクラシックよりも一段低く見られているのは残念」と語るのはジャズ教育の大家、稲森康利氏（日本ジャズ教育フォーラム会長）。「僕はクラシックもポピュラー、ジャズも全く同列だと思っています。要は感動するかしないかの問題であって、良い音楽と悪い音楽があるだけのことでないでしょうか」とも。

現代のような情報化時代においては、意識的、無意識的に様々な音楽が交錯しています。厳密なジャンル分けも難しくなってきましたし、あえて分ける必要もないように感じます。私はクラシックもポピュラーもそしてジャズも大好きです。しかし、そ

の作品全てが良いわけではありません。よいものを見抜く確かな目というものを、私達指導者は養っていくべきでしょう。生徒がたとえ初心者であっても、その感性を甘く見ないことです。良い作品には、ジャンルに関わらず心に響くものがあり、表現に見るべきものがあります。（例えば、ギロックの小品やチック・コリアの「チルドレンズ・ソング」など）

<良い作品の条件>

- 1 何度弾いても飽きない。弾く度に新しい発見がある。
- 2 演奏中もしくは演奏後に、音楽的な満足感が得られる。

今回は、この時期うれしい、クリスマス曲集をいくつかご紹介しましょう。クリスマスの楽曲をおしゃれに楽しみたいという先生方に特におすすめいたします。ポピュラー＝安っぽいというイメージをお持ちの方も、この曲集の新しいハーモニー感覚と、ハイセンスな内容に驚かれることでしょう。クリスマス・コンサートなどにぜひご活用下さい。

さて、盛りだくさんの内容となってしまいました、いかがでしたでしょうか。「こんなことを取り上げて欲しい」「ここの記事は役に立った」「おすすめの曲集の、この曲は特に良かった」「こんなことで悩んでいる」などなど、ご感想、ご要望をお待ちしております。お気軽にお便り下さいね。（同封の返信ハガキもご利用下さい）

♪ おすすめ曲集 ♪

【ピアノソロ】上級 「クリスマス・ジャズ」Vol.1

シルヴァー・ベル 久しく待ちにし ホワイト・クリスマス
クリスマス・ソング ラスト・クリスマス など15曲

【クリスマス・ジャズ】Vol.2

アヴェ・マリア サンタクロースがやってくる そりすべり
ハッピー・クリスマス クリスマス・イブ グリーン・スリーブス
など15曲

【みんなでれんだん】中級 「ハッピー・クリスマス」

サンタが町にやってくる ジングル・ベル きよしこの夜 サンタ
クロースがやってくる クリスマスキャロル・メドレー など9曲、こどもたちも楽しめる
内容です

(上記3冊は、いずれも稲森康利監修、CAP中央アート出版社刊)

【ピアノソロ】上級 「クリスマス・メロディーズ」

クリスマス・スタンダードメドレー ホワイト・クリスマス サイレント・イヴ
Pearl-white Eve クリスマス賛美歌メドレーなど16曲

(加羽沢美濃編曲 全音楽譜出版社刊 日本コロムビア(株)からCDも発表されています)

